

| 活 用 事 例   | 山口市立白石小学校   | 古屋伸浩教諭 |
|---|---|--------|
| 活用事例タイトル  | 情報戦隊マモルンジャー   |        |
| 対象授業科目/活動   | 学級活動・生活科・総合的な学習の時間  |        |
| 授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICTの使用局面など) | <p>1 教材概要<br/>情報モラル指導に役立てるために制作したオリジナルのビデオコンテンツ</p> <p>2 場面設定<br/>時は近未来、ネット社会はますます加速化し便利になっている。子どもたちの机にも画面と通信機能が備わり、あらゆるものがネットにつながるようになった。<br/>一方、ネットワークを混乱させ、誤った情報を送りつけるネット海賊「ウイルス軍団」が密かに活動を始めていた。この海賊の最高幹部で、世界征服を狙っているのが「バグ帝王」。世界の平和を守るために立ち上がった5人の戦士たちは、得意な分野で大活躍をして、悪の軍団に立ち向かう。</p> <p>3 対象学年<br/>小学校低学年から中学年</p> <p>4 各コンテンツのねらい<br/>登場する5人にはそれぞれ次のような問題を担当させることにした。<br/>・マモルレッド：Webページの偽りの情報（真っ赤なウソを見破るレッド）<br/>・マモルブルー：テレビショッピング（通信販売で青ざめる人を救うブルー）<br/>・マモルピンク：不審電話や個人情報（不審者情報にはピンとくるピンク）<br/>・マモルイエロー：著作権（著作権違反にはイエローカードを出すイエロー）<br/>・マモルシルバー：健康問題（何でも知っている物知りシルバー）</p> |        |
| ICT活用により期待できる効果<br>ICT活用のねらい                          | <p>1 ICT活用のねらい<br/>1話あたり3分程度の短い内容であるため、朝の時間や帰りの時間等を利用して、繰り返し視聴することができる。そして、どの話も最後に「どうすればいいの?」と投げかけているので、視聴後に話し合いをもつことが有効である。</p> <p>2 オリジナルソングの活用<br/>ビデオ教材には毎回1分ほどのオリジナルの歌を挿入し、それを口ずさむことで親しみを持たせると同時に、モラルの内容を盛り込んだ歌詞の内容が頭に残りやすいように意図した。</p>  |        |
| 評価、振り返り(活動の評判や児童・生徒の声など)                              | <p>2年生を対象とした実践では、ヒーロー物のイラストと主題歌に興味をもち、熱心に視聴することができた。</p> <p>授業を行ったクラスでは、80%以上の家庭にパソコンがあり、児童の40%がウェブページを日常的に見ていた。また、ゲームの裏技も攻略本といわれる雑誌やインターネットで見ることがあるようで、視聴後にはそれぞれの体験を話し合うことができた。</p>  |        |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>ゲームやインターネット閲覧の経験のない児童にはやや難しかったかもしれないが、「大きくなってパソコンを使うときには気をつけます。」といった感想もあり、インターネットを日常的に使う前段階での、予防的な効果もあったと考えられる。</p>  |
| <p>その他<br/>(関連 WEB サイト等ありましたらご記入ください。)</p> | <p>山口県教育委員会「やまぐち総合教育支援サイト」にコンテンツを掲載<br/><a href="http://shien.ysn21.jp/contents/teacher/shidou/moral.html">http://shien.ysn21.jp/contents/teacher/shidou/moral.html</a></p> |



携帯ゲームに熱中するタダシくん。

タダシ:「うまくいかないよ、もうちょっとなんだけどなあ・・・  
そうだ、インターネットに裏技がのっているって、  
ケイコちゃんが言ってたなあ。」

カチャ・カチャ(マウスをクリックするタダシくん)

タダシ:「これこれ、いろんな裏技がのってるぞ。」



バグ:「フフフ、ひっかかったな。その裏技をすればデータは全部消えるのさ。ヒヒヒ・・・」

タダシ:「これでいいのかな?よし、決定。」

レッド:「ストップ、タダシくん。」

タダシ:「えっ、なあに。」

レッド:「その操作をすると、データがみんな消えてしまうよ。」

バグ:「ええい、邪魔しおって、何者だ。」



レッド:「真っ赤なうそを見抜く、情報社会の味方、情報戦隊マモルレッド! タダシくん、バグ帝王を信じてはだめだ。」

タダシ:「がんばれ、マモルレッド。」

レッド:「マモル ファイアー!!!」

バグ:「これはたまたま、マモルレッドとやら、おぼえておれよ。」

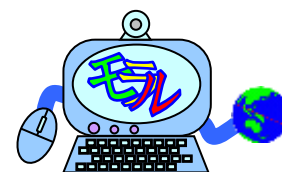
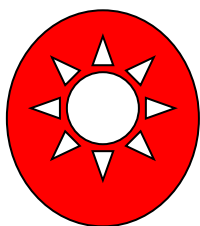


タダシ:「マモルレッド、ありがとう。」

レッド:「大切なデータが消えるところだったね。インターネットの中には、うその情報もあるから気をつけるんだよ。」



タダシ:「そうなんだ。でも、どうやったらわかるの?あれ、マモルレッドがいない。どこにいったの?ぼくどうすればいいの?」



|       |   |
|-------|---|
| 大項目   | WWW   |
| 小項目   | Web ページ (偽りの情報)   |
| タイトル  | 情報戦隊マモルンジャーNo.1 「真っ赤なうそは、いけんのジャー！」の巻  |
| 主な対象  | 小学校 低学年   |
| ねらい   | Web 上の偽りの情報から正しい情報を取捨選択できるようにさせる。   |
| 作成の意図 | <p>Web ページには見る人に迷惑をかけるために制作者が意図して偽りの情報を掲載したり、迷惑をかけるつもりはなくても勘違い等から誤った情報が掲載されたりすることがある。</p> <p>家庭用ゲーム機やパソコンでのゲームを楽しむ小学生は、多数の攻略本や裏技が書いてある掲示板などから情報を得ようとするので、保護者が知らないうちにだまされるケースが考えられる。ゲームのデータの紛失程度であれば日常生活への被害は大きくないが、ネット詐欺や著作権侵害等への発展も考えられるので低学年のうちから偽情報の存在を意識することが大切である。</p> <p>そこで、このコンテンツを利用して、Web 上に潜む偽りの情報の実態について身近なゲームを通して考えさせたい。</p> |
| 指導内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや掲示板には間違った情報も掲載されている場合があること。</li> <li>・おかしいなと思ったときは、必ず家の人に相談すること。</li> </ul>  |
| 説明の方法 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居またはパソコン上でスライドショーを再生する。</li> <li>・オープンエンドなので、「タダシ君はどうすればいいでしょう」となげかけて、クラスで話し合いをする。</li> </ul>   |

No.2 「勝手に買い物困るんジャー」の巻 (テレビショッピング)



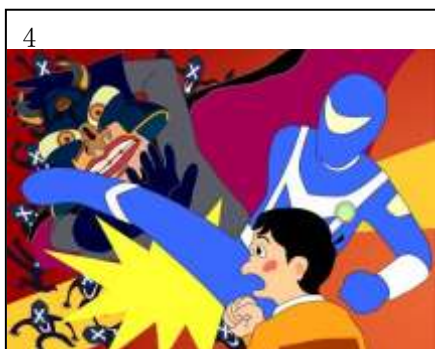
タダシくんは一人で留守番中にテレビを見ている。  
テレビ:「本日のおすすめはこれ、マモルンジャーの変身セット。これを着れば、足が速くなるし、どんなに高いところから飛び降りても平気です。今なら、1枚買えば4枚をサービスします。しかも、注文は小学生の君でも電話1本でOK、代金はお届けしたときに家の人に払ってもらいましょう。いますぐお電話を！」



タダシ:「ほしいなあ。でも、電話したらまずいよね。」  
バグ:「ほうれ、電話しろ、電話しろ、大丈夫だから電話しろ。」  
タダシ:「それほど高くもないし、誕生プレゼントを自分で選んだよって言えばいいかな。」



ブルー:「ストップ、タダシくん。」  
タダシ:「えっ、なあに。」  
ブルー:「勝手に電話してはいけないぞ。」  
バグ:「ええい、邪魔しておって、何者だ。」

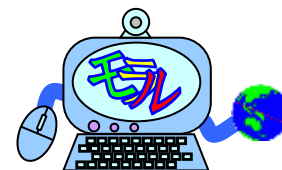
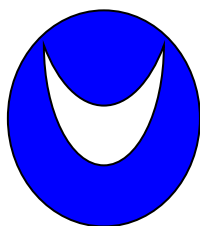


ブルー:「自分を忘れてブルーになる人を助ける、情報社会の味方、情報戦隊マモルブルー！ タダシくん、そのテレビはバグ帝王のたくらみだよ。」  
タダシ:「そうなんだ、マモルブルー。」  
ピンク:「マモルキック！！！」  
バグ:「これはたまらん、マモルブルーとやら、おぼえておれよ。」



タダシ:「マモルブルー、ありがとう。」  
ブルー:「バグ帝王のわなにひっかかるところだったね。子ども一人でテレビショッピングは危険だよ。」  
タダシ:「そうなんだ。でも、どうして危険なの？あれ、マモルレッドがいない。どこにいったの？ぼくどうすればいいの？」

教師の発問「タダシくんはどうすればいいのでしょうか」(話し合い活動へつなぐ)



|       |  |
|-------|--|
| 大項目   | その他  |
| 小項目   | テレビや広告（テレビショッピング・ネットショッピング）  |
| タイトル  | 情報戦隊マモルンジャーNo.2「勝手に買い物困るんジャー」の巻  |
| 主な対象  | 小学校 低学年  |
| ねらい   | テレビや広告に惑わされない賢い消費者になるための基礎を身に付けさせる。  |
| 作成の意図 | <p>ダイエットブームや健康ブームの影響からか、テレビや新聞広告では連日のように消費者の購買意欲をそそるようなうたい文句で通信販売の情報があふれている。テレビの多チャンネル化で、ショッピング専用の番組さえある。</p> <p>商品の多くは成人向けであるが、小学生が欲しくなるような商品も販売されていることもある。実際の購入手続きでは未成年が購入するには保護者の同意が必要であるが、葉書による申し込みやネットショッピングでは、大人に成りすまして注文しないとも限らない。</p> <p>そこで、このコンテンツを利用して、通信販売の便利さを知るとともに将来の賢い消費者になるためにはどうすればいいかを考えさせたい。</p> |
| 指導内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビショッピングなどの通信販売は便利な反面不要なものも購入してしまう場合があること。</li> <li>・実際の商品を見ないで購入することには落とし穴があるということ。</li> </ul>   |
| 説明の方法 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居またはパソコン上でスライドショーを再生する。</li> <li>・オープンエンドなので、「タダシ君はどうすればいいでしょう」となげかけて、クラスで話し合いをする。</li> </ul>  |





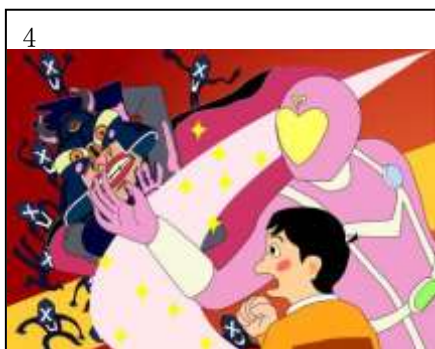
タダシくんが一人で留守番中に電話がかかる。  
タダシ:「もしもし、山口です。」  
バグ:「その声はタダシくんだね。」  
タダシ:「そうですが、どちらさまですか？」  
バグ:「おれさまは、いや、わたくしは、警察のものです  
が、最近、子どもをねらう悪いやつがいるので、こ  
うして、電話で呼びかけているんだよ。」



タダシ:「そうなんだ、気をつけるよ。」  
バグ:「えらいなあ、タダシくんは。ヒッヒッヒッ・・  
ところで、君の友達にも電話したいんだが、  
クラスの子の電話番号を教えてはくれない  
かね？」  
タダシ:「うん、わかったよ。」



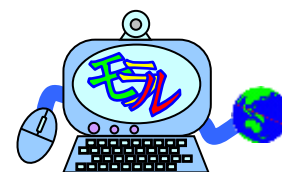
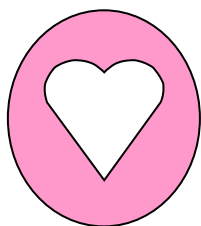
ピンク:「ストップ、タダシくん。」  
タダシ:「えっ、なあに。」  
ピンク:「その電話は警察からではないわよ。」  
バグ:「ええい、邪魔しおって、何者だ。」



ピンク:「変な人にはピンとくる、情報社会の味方、情報戦  
隊マモルピンク！ タダシくん、バグ帝王を信じて  
はだめよ。」  
タダシ:「そうなんだ、マモルピンク。」  
ピンク:「マモル ビーム！！！」  
バグ:「これはたまらん、マモルピンクとやら、おぼえてお  
れよ。」



タダシ:「マモルピンク、ありがとう。」  
ピンク:「友達に迷惑をかけるところだったわね。電話を使  
って人をだましたり、電話番号を聞きだしたりする  
悪い人がいるから気をつけるのよ。」  
タダシ:「そうなんだ。でも、どうやったらわかるの？あれ、  
マモルピンクがいない。どこにいったの？ぼくどう  
すればいいの」



|       |  |
|-------|--|
| 大項目   | その他  |
| 小項目   | 不審電話 個人情報  |
| タイトル  | 情報戦隊マモルンジャーNo.3 「あやしい電話には気をつけるんジャー」の巻  |
| 主な対象  | 小学校 低学年  |
| ねらい   | 個人情報を聞き出す不審電話にだまされないように気をつけさせる。  |
| 作成の意図 | <p>電話番号や住所などの個人情報がお金になり、自分たちの知らないところで取引され、さまざまな勧誘に利用されている。</p> <p>情報を聞き出す手口も年々巧妙化して、大人でさえだまされることがあるので、一人で留守番をしている小学生にとっては脅威である。</p> <p>そこで、このコンテンツを利用して、不審電話の実態を知るとともに、その対応について考えさせたい。</p> |
| 指導内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・不審電話がかかってきたときには一人で対応しないこと。</li> <li>・留守番をしているときに知らない人から電話がかかったときには、相手の名前と電話番号を聞いてこちらからかけなおすと対応すること。</li> </ul>                                     |
| 説明の方法 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居またはパソコン上でスライドショーを再生する。</li> <li>・オープンエンドなので、「タダシ君はどうすればいいでしょう」となげかけて、クラスで話し合いをする。</li> </ul>  |





タダシくんがイラストを描いている。

タダシ:「情報戦隊、マモルンジャー。かっこいいよなあ。  
よし、うまくかけたぞ。そうだ、明日ケイコちゃんに  
見せようっと。」

バグ:「マモルンジャーだと、ええい、にくたらしい。そう  
だ、ケイコに変身して、タダシを困らせるか。」

次の日…



タダシ:「ケイコちゃん、見て見て。上手にかけたよ。」

ケイコ:「ホントだな、いや、ほんとね。そうだ、これをシー  
ルにして、ネットで売り出せばもうかるよ。」

タダシ:「そんなことできるの？」

ケイコ:「私、お父さんからやり方を教えてもらっているか  
ら、やってみようよ。」

タダシ:「いいかもね。」



レッド:「ストップ、タダシくん。」

タダシ:「えっ、なあに。」

イエロー:「そのケイコちゃんのはにせものじゃ。」

バグ:「ええい、邪魔しおって、何者だ。」



イエロー:「作った人の権利を守る、情報社会の味方、情報  
戦隊マモルイエロー！ タダシくん、バグ帝王を  
を信じてはだめっちゃ。」

タダシ:「そうなんだ、マモルイエロー。」

イエロー:「マモル パーンチ！！！」

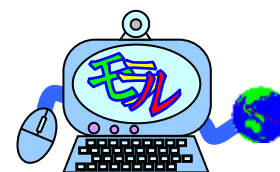
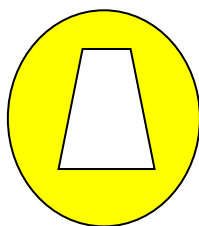
バグ:「これはたまらん、マモルイエローとやら、おぼえて  
おれよ。」



タダシ:「マモルイエロー、ありがとう。」

イエロー:「バグ帝王にだまされるところじゃたね。マンガの  
キャラクターや、人のかいたものを勝手にコピーし  
したり売ったりするのはいけんことなんよ。」

タダシ:「そうなんだ。でも、どうして？ぼく、絵をかくのは  
好きなのに……あれ、マモルイエローがいない。  
どこにいったの？ぼくどうすればいいの」



|       |   |
|-------|---|
| 大項目   | その他   |
| 小項目   | 著作権（全般）   |
| タイトル  | 情報戦隊マモルンジャーNo.4「勝手にコピーはいけないんジャー」の巻  |
| 主な対象  | 小学校 低学年   |
| ねらい   | 他人が作ったものには著作権があり、勝手に使用してはいけないということを知らせる。  |
| 作成の意図 | <p>パソコンの普及により手軽に複製が可能となり、いろいろな著作物がコピーされている現状がある。学校内では教師や児童・生徒は教育的な利用は許されているが、その範囲を正しく理解し厳密に守っているかといえば疑問である。</p> <p>マンガのキャラクターを書き写したり、音楽CDをコピーしたりは日常的に子ども達も行っているが、小学生だから個人で楽しむ範囲を越えないとも限らない。</p> <p>そこで、このコンテンツを利用して、著作物の扱い方とその権利を守るためにはどうすればいいかを考えさせたい。</p> |
| 指導内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他人が作った作品を勝手にコピーしたり販売したりしてはいけないということ。</li> </ul>   |
| 説明の方法 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居またはパソコン上でスライドショーを再生する。</li> <li>・オープンエンドなので、「タダシ君はどうすればいいでしょう」となげかけて、クラスで話し合いをする。</li> </ul>   |

No.5 「時間を決めて使うんジャー」の巻（健康問題）



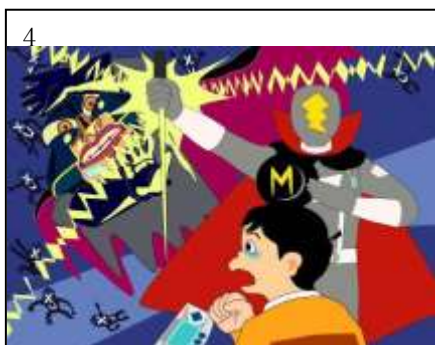
タダシくんが学校から帰ってくる。  
タダシ：「ただいま。あれ、だれもいないんだ。買い物に行ったのかな。ラッキー、今のうちにパソコンでゲームしちゃお。」



家の人：「ただいま。タダシいるの？」  
タダシ：「いるよ。今、宿題やっているから手が離せないんだ。」  
家の人：「そう、がんばってね。」  
バグ：「そうだ、やれ、やれ、どんどんやってしまえ。食事も寝るのも忘れて続けるんだ・・・」



シルバー：「ストップ、タダシくん。」  
タダシ：「えっ、なあに。」  
シルバー：「パソコンのやりすぎは体に毒じゃよ。」  
バグ：「ええい、邪魔しおって、何者だ。」

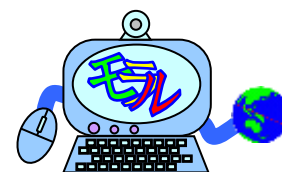
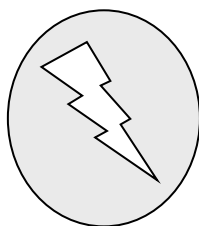


シルバー：「子ども達の健康を守る、情報社会の味方、情報戦隊マモルシルバー！ タダシくん、バグ帝王の言うとおりにしちゃあ体をこわすぞい。」  
タダシ：「そうなんだ、マモルシルバー。」  
シルバー：「マモル サンダー！！！」  
バグ：「これはたまらん、マモルシルバーとやら、おぼえておれよ。」



タダシ：「マモルシルバー、ありがとう。」  
シルバー：「バグ帝王にあやつられるところじゃったの。長い時間パソコンやゲーム機を使うと目が悪くなったり寝不足になるんじゃないよ。」  
タダシ：「そうなんだ。じゃあ、どれくらいならいいの？あれ、マモルシルバーがいない。どこにいったの？ぼくどうすればいいの」

教師の発問「タダシくんはどうすればいいのでしょうか」（話し合い活動へつなぐ）



|       |  |
|-------|--|
| 大項目   | WWW  |
| 小項目   | 健康問題（長時間のパソコン操作・ネット中毒・生活リズムの乱れ）  |
| タイトル  | 情報戦隊マモルンジャーNo.5「時間を決めて使うんジャー」の巻  |
| 主な対象  | 小学校 低学年  |
| ねらい   | 長時間のパソコン操作による健康問題について考えさせる。  |
| 作成の意図 | <p>パソコンを通して情報を得ることは大変便利なことであるが、情報量の多さなどから目的の情報を得るまでに長時間かかることはよくある。また、ネットゲームをする場合なども際限なく使ってしまうがちである。</p> <p>特に子ども達は、ゲームに熱中するあまり中毒になることが予想されるので、幼い時期からの対策が必要である。</p> <p>そこで、このコンテンツを利用して、節度のあるパソコン（ゲーム機）利用の仕方を考えさせる機会としたい。</p> |
| 指導内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間の画面凝視や同じ姿勢は健康によくないこと。</li> <li>・中毒症状により、睡眠時間が少なくなるなどの生活の乱れが起こると、どのような弊害があるかということ。</li> </ul>  |
| 説明の方法 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居またはパソコン上でスライドショーを再生する。</li> <li>・オープンエンドなので、「タダシ君はどうすればいいでしょう」となげかけて、クラスで話し合いをする。</li> </ul>  |